

川越市観光アンケート調査

報告書

平成27年度



川越市マスコットキャラクター

ときも

平成28年5月

川 越 市

目 次

1. 平成27年川越市入込観光客数の概要	2
2. 観光アンケート調査の統計・分析	3
2-1. 観光アンケート調査の趣旨	3
2-2. 観光アンケート調査の方法	4
2-3. 観光アンケート調査の結果	6
2-3-1. 出発地	6
2-3-2. 性別	11
2-3-3. 年齢	12
2-3-4. 同行者	12
2-3-5. 交通手段	13
2-3-6. 滞在期間	14
2-3-7. 宿泊観光客	14
2-3-8. 観光時間	16
2-3-9. 訪れた時刻、帰る時刻	17
2-3-10. 来訪回数	17
2-3-11. 認知方法	18
2-3-12. 立ち寄り観光地	19
2-3-13. 交通費	21
2-3-14. 宿泊費	21
2-3-15. 飲食費	22
2-3-16. 入館料・入場料	22
2-3-17. お土産購入費	23
2-3-18. 要望	24
2-3-19. 意見・感想	25
3. 観光消費額	26

1. 平成27年川越市入込観光客数の概要

平成27年に川越を訪れた観光客数は664万5千人だった（外国人観光客含む）。前年に比べ6万6千人の増加（1.0%増）となった。

要因として、訪日外国人旅行者が大幅に増加したことがひとつと考えられる。また、テレビや新聞等のメディアで川越が取り上げられることが多くなり、主要な観光スポットである時の鐘や菓子屋横丁でのカウント調査による来場者数は大幅に増加した。菓子屋横丁の火災による影響は、一時的なものであり、翌月の7月のカウント調査人数は激減したが、年間の人数は増加した。

川越まつり会館は97,593人で、3,849人減（前年比で3.8%減）であった。市立美術館は106,478人で、5,023人増（前年比で5.0%増）、川越市立博物館は98,215人で、2,165人増（前年比で2.2%増）、川越城本丸御殿は146,477人で、11,428人増（前年比で8.5%増）、蔵造り資料館は79,235人で、23,771人増（前年比で1.9%増）であった。このように、川越まつり会館以外の4つの観光施設において入館者数が増加した。

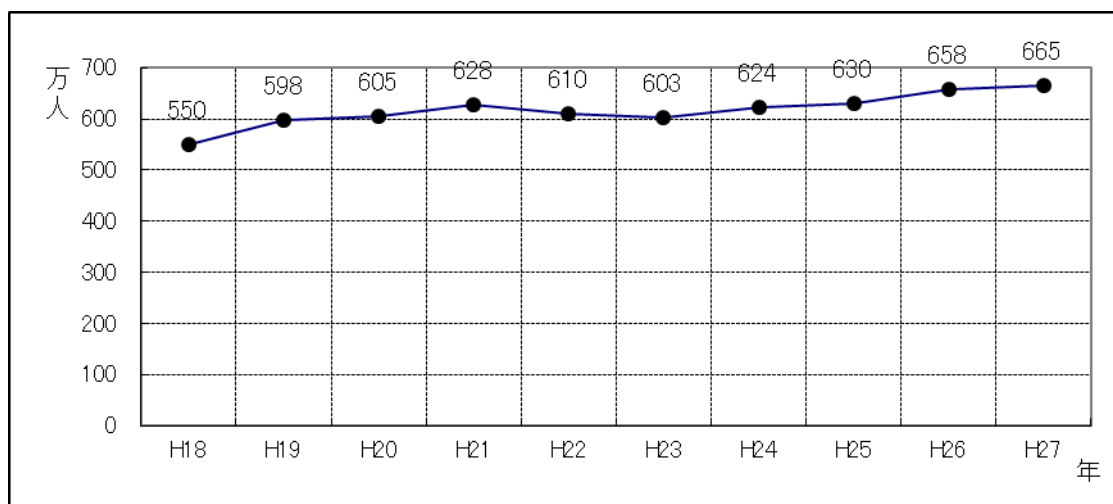
各種行事については、天候に恵まれた小江戸川越春まつりオープニングイベントでは、3万1千人と前年よりも9千人増（前年比で40.9%増）であった。同様に、小江戸川越春まつりフィナーレイベントも、3日間連日で好天となり、3日間で15万1千人と、前年比で4千人増（前年比で2.7%増）であった。川越百万灯夏まつりは16万5千人で、前年と同数であった。小江戸川越花火大会は、当日の日中まで雨天により実施が危ぶまれる状況であり、来場者数は9万人で昨年と比べて4万人の減少（前年度比30.8%減）であった。

川越市最大の伝統行事「川越まつり」は、92万9千人と前年比で4万3千人減少した。主な要因として、1日目の正午まで雨模様であったこと、山車が昨年よりも少なかったこと（平成26年：21台、平成27年：13台）等が考えられる。

かわごえ産業フェスタは川越産業博覧会から名称を変えてから2回目の開催であり、来場者数は1万4千人であった。好天に恵まれた昨年と比べ、今年は2日目が終日雨天となり、約9,600人減（前年度比で40.5%減）という結果であった。

※川越市入込観光客数は暦年で調査を実施。

（表1） 過去10年間の川越市入込観光客数



平成 27 年の外国人入込観光客数は、119,000 人と、平成 26 年に比べ、42,000 人増加し、約 54.5%の増加となった。

要因としてクルーズ船の寄港増加、航空路線の拡大、燃油サーチャージの値下がりによる航空運賃の低下、これまでの継続的な訪日旅行プロモーションによる訪日旅行需要の拡大である。その他、ビザ（査証）の発給条件の緩和や円安の進行、免税店の増加があったことから、2015 年の訪日観光客数が増加した。このように、日本全体の訪日外客数の増加に伴って、川越市の外国人観光客数も増加したと推測される。

そのほか、観光課で実施した、無料 Wi-Fi 整備や川越まつりのパンフレット及びホームページの多言語化、オリンピック大会準備室で実施したツーリズム EXPO ジャパンへの出展参加や NHK 国際放送でプロモーション映像放映などのインバウンド事業の成果が徐々に表れていると推測される。

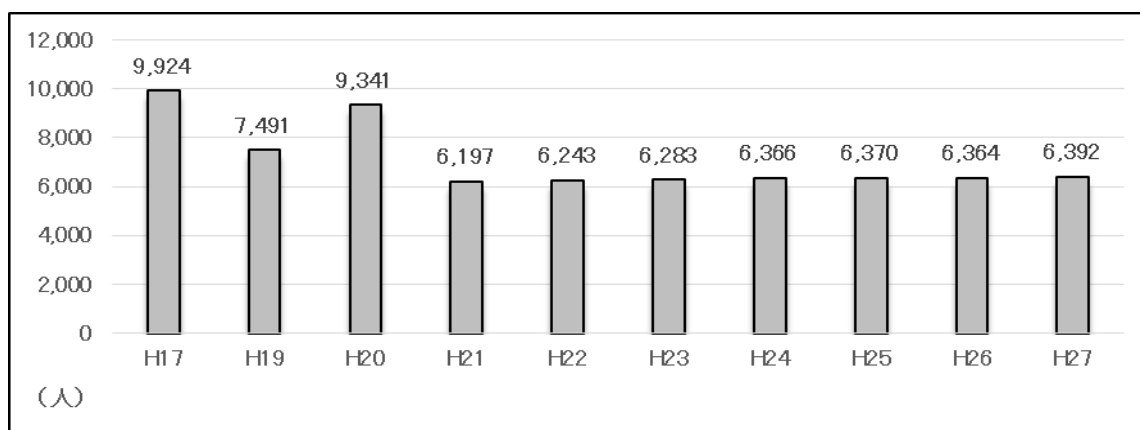
2. 観光アンケート調査の統計・分析

2-1 観光アンケート調査の趣旨

観光アンケート調査は、観光客一人一人に対する聞き取りによるもので、その結果を基に、観光客の出発地、交通手段、立ち寄り観光地、観光消費額など、観光客の基本的な動態を把握することを目的としている。

当調査は、平成 17 年から実施している。（図 1 参照 ※平成 18 年は未実施）平成 27 年度も同様の調査を行うことによって、経年の変化を把握するとともに、観光客の特性を分析することによって今後の観光振興策の重要な資料とする。

（図 1）年毎のアンケート調査の標本数



※実施期間は、平成 17 年及び平成 19 年については、1 月～12 月に実施。
平成 20 年以降は 4 月～翌年 3 月に実施。

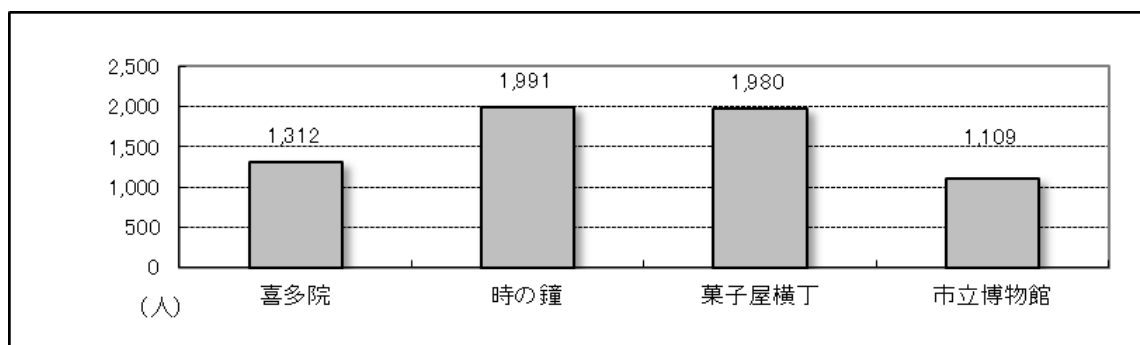
2-2 観光アンケート調査の方法

平成27年4月から平成28年3月までの1年間を調査期間とし、主要観光地点4ヶ所において、各地点を訪れる観光客に対し、聞き取りによる計6,392件の観光アンケート調査を実施した。

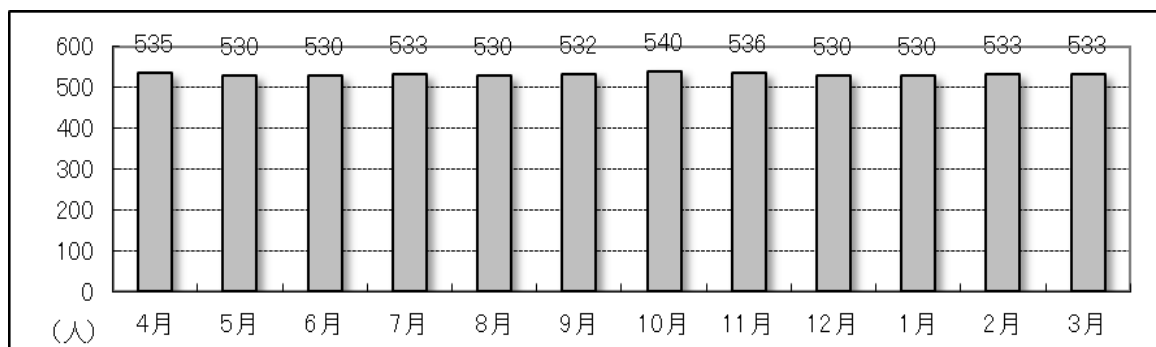
アンケート調査地点および各地点の聞き取り件数は(図2)のとおりである。いずれの地点も午前11時から午後3時までの4時間で調査を実施している。

また、(図3)のとおり、6,392件のアンケート調査に偏りが出ないように、月毎に調査を実施している。

(図2) 観光アンケート調査地点と聞き取り件数



(図3) 各月の観光アンケート調査数



※なお、回答結果については、百分率(%)で表示しているものもあるが、小数点第2位で四捨五入しているため、その数値の合計は100%を前後する場合がある。

(参考) 実際に使用した観光アンケート調査票

(表)

(裏)

川越市観光アンケート調査票

※調査員の方へ★
アンケートの際は、右の地名、年、月、日の欄を最初に数字だけ記入し、問1以降は筆書きで記入してください。問1以降は筆書きで記入してください。右欄が空欄の場合は記入しなくても構いません。

問1 お住まい、性別、年齢をお教えてください。

(1) 都道府県名 () (海外の方は国名)
※埼玉県、東京都、神奈川県にお住まいの場合は、市区町村名 ()

(2) ①男 性 ②女 性

(3) ①10代 ②20代 ③30代 ④40代 ⑤50代 ⑥60歳以上

問2 どなたといらっしゃいましたか。(ひとつだけ)

①ひとり ②夫婦 ③子供連れ家族 ④その他家族(両親や兄弟など) ⑤友人知人 ⑥仕事仲間

⑦地域の団体 ⑧学校の団体 ⑨その他

問3 川越までの主な交通手段は何ですか。(ひとつだけ)

※複数の交通手段を利用している場合は、最後に利用した交通手段

①J路線 ②東武線 ③西武線 ④路線バス・タクシー ⑤観光バス ⑥自家用車 ⑦バイク・自転車 ⑧徒歩

問4 川越へ滞在される(された)期間はどのくらいですか。(ひとつだけ)

①日帰り ②1泊 ③2泊 ④3泊 ⑤4泊以上

※川越市内で宿泊した場合は、②～⑤を記入。

問5 (1) 川越での観光時間はどのくらいですか。(ひとつだけ)

①1時間程度 ②2時間程度 ③3時間程度 ④半日 ⑤1日 ⑥1日以上

(2) (1)で①～⑤と回答した方にお用います。
川越での観光時間は何時から何時まで(予定)ですか?(24時間表記)

()時から()時まで

問6 川越にはこれが何回目のご旅行ですか。(ひとつだけ)

①初めて(1回目) ②2回目 ③3回目 ④4回目以上

問7 川越をどのようにしてお知りになりましたか。(複数回答可)

①テレビ・ラジオ ②ポスター・パンフレット
③新聞・雑誌 ④旅行会社等のツアー ⑤インターネット
⑥知人などに勧められて ⑦最初から知っていた(地元の方も含む)
⑧その他()

問8 川越市マスコットキャラクター『ときも』をご存知ですか?

①知っている ②知らない

問9 川越のどこを観光されます(ました)か。(複数回答可)

①蔵造りの町並み ②時の鐘 ③菓子屋横丁 ④蕎麦街 ⑤蔵造り資料館
⑥川越まつり会館 ⑦市立博物館 ⑧市立美術館 ⑨川越城本丸御殿
⑩護国寺 ⑪水川神社 ⑫成田山川越別院 ⑬小江戸蔵聖
⑭その他()

問10 川越市内において、一人あたりいくらくらい使われます(ました)か。

(1) 交通費(市内バス、又はタクシー代)
※タクシーを複数人利用の場合は、人数で割った額

② 宿泊費 []円
③ 飲食費 []円
④ 入館料・入場料 []円
⑤ お土産品購入費 []円

問11 川越に対しての要望についてお聞かせください。(複数回答可)

①交通の安全性の向上 ②駐車場の整備 ③観光スポットの充実
④無料休憩所・トイレの整備 ⑤観光案内板の整備
⑥ポケットパークの充実 ⑦観光パンフレット・ガイドの充実
⑧障害者への配慮 ⑨レンタサイクルの充実
⑩その他 []

ご協力ありがとうございました。

また、調査にご協力頂いた観光客に対しては、調査終了後に「千社札シール」を手渡した。

(参考) 千社札シール



2-3 観光アンケート調査の結果

2-3-1 出発地

アンケート回答者総数 6,392 人のうち、国内が出发地の観光客は 6,148 人、国外が出发地の観光客は 243 人だった（1 人は不明）。

以下、出発地の分析を国内と国外とに分けておこなう。

(1) 国内

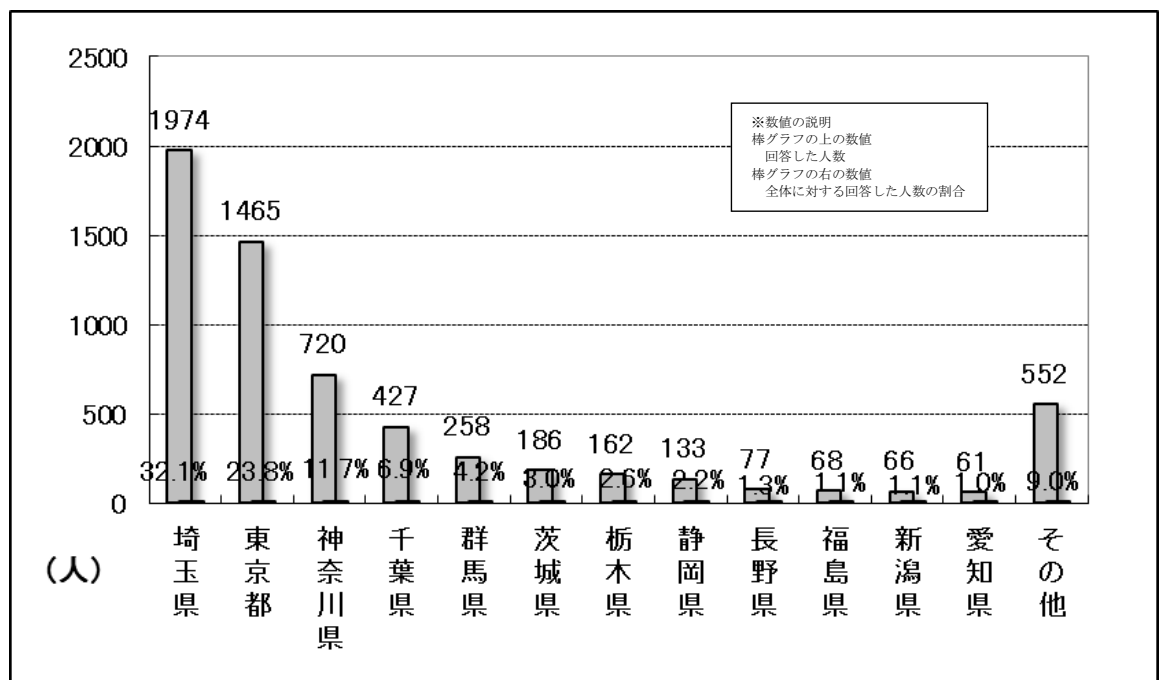
①都道府県別

川越を訪れた観光客の 8 割以上が関東地方の各都県から出発していた（図 4）。特に、県内市町村および東京都を出发地とする観光客の割合が 55.9%であり、全体の過半数を占める結果となった。これは、都心から 1 時間以内に訪れることのできる立地特性が要因となっているものと考えられる。

また、県内市町村および東京都以外を出发地とする観光客の割合は 44.1%であり、前年度より 0.1 ポイント増加と、前年とほぼ同様の結果となった。神奈川県からの観光客数が平成 26 年度（683 人、11.1%）から、平成 27 年度（720 人、11.7%）と 0.6 ポイント増加した。

関東地方の各都県以外では、静岡県（133 人、2.2%）、長野県（77 人、1.3%）、福島県（68 人、1.1%）から出発した観光客が上位の結果となった。全国の各都道府県別出发地は表 2 のとおりである。

（図 4） 出発地



(表 2) 都道府県別出発地

地方	件数	都道府県別（上位順に表記）※カッコ内は人数
関東	5, 241人	埼玉県(1,974), 東京都(1,465), 神奈川県(720), 千葉県(427), 群馬県(258), 茨城県(186), 栃木県(162), 山梨県(49)
東海	216人	静岡県(133), 愛知県(61), 三重県(13), 岐阜県(9)
東北	187人	福島県(68), 宮城県(52), 山形県(27), 青森県(13), 岩手県(14), 秋田県(13)
北陸・信越	181人	長野県(77), 新潟県(66), 富山県(21), 福井県(7), 石川県(10)
近畿	103人	大阪府(48), 兵庫県(28), 京都府(12), 奈良県(7), 滋賀県(5), 和歌山県(3)
九州・沖縄	99人	福岡県(39), 熊本県(9), 沖縄県(8), 長崎県(15), 大分県(6), 鹿児島県(8), 宮崎県(10), 佐賀県(4)
北海道	57人	北海道(57)
中国	42人	広島県(23), 岡山県(6), 山口県(7), 島根県(4), 鳥取県(2)
四国	22人	香川県(5), 高知県(4), 徳島県(3), 愛媛県(10),
計	6,148人	

※各都道府県の地方区分は、郵便事業株式会社発行の郵便番号簿の地方区分に従った。

②市区町村別（埼玉県、東京都、神奈川県）

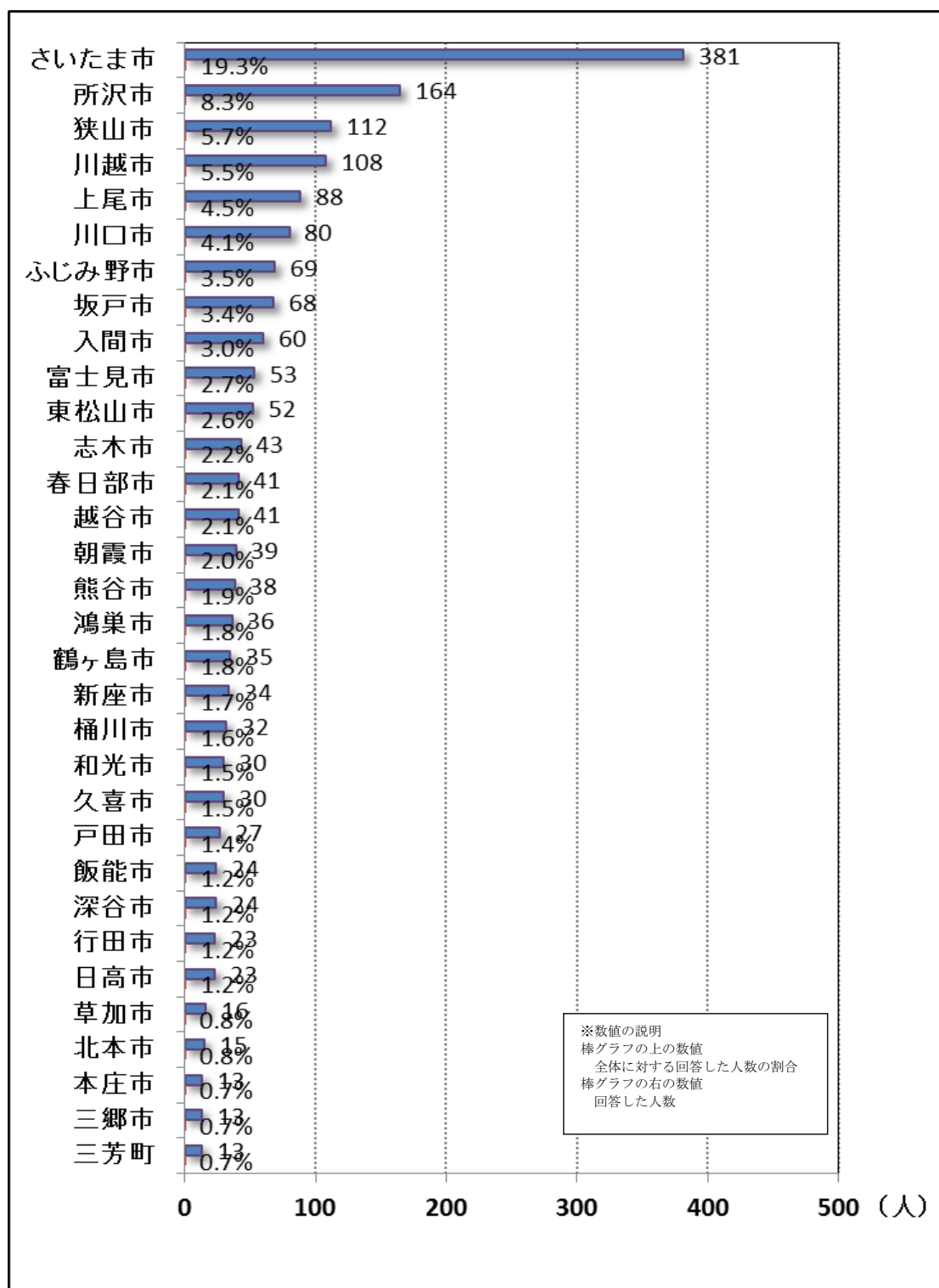
上位3位を占めた埼玉県、東京都、神奈川県の観光客について、市区町村別出発地は、図5（埼玉県）、図6（東京都）、図7（神奈川県）のとおりとなった。

（ア）埼玉県

埼玉県内の上発地で最も多かったのはさいたま市であり、全体の19.3%を占め、前年よりも0.8ポイント減少した（平成26年度：20.1%）。距離の近さ、人口の多さ（1,275,906人、平成28年5月1日現在）、および、JR川越線、国道16号などによる交通アクセスの利便性の良さが最上位になった要因と考えられる。平成19年度より埼玉県内の上発地データを集計している（平成20年度についてはデータなし）が、毎年度さいたま市が1位を占めている。

その次に多かったのは、所沢市の8.3%であった。続いて第3位は狭山市（5.7%）、第4位は川越市（5.5%）、第5位は上尾市（4.5%）という結果だった。

(図5) 埼玉県の市町村別出発地



(イ) 東京都

東京都内の出発地で最も多かったのは練馬区であり、全体の 12.9%を占めた。練馬区が第 1 位となった要因としては、人口の多さ（721,858 人、平成 28 年 5 月 1 日現在）や、西武新宿線、東武東上線、川越街道（国道 254 号）、関越自動車道（練馬 IC～川越 IC）など交通の利便性が高いことが考えられる。

第 2 位は板橋区の 8.0%で、続いて第 3 位は八王子市（6.1%）、第 4 位は世田谷区（5.6%）、第 5 位は大田区（4.2%）という結果だった。

(図 6) 東京都の市区町村別出発地

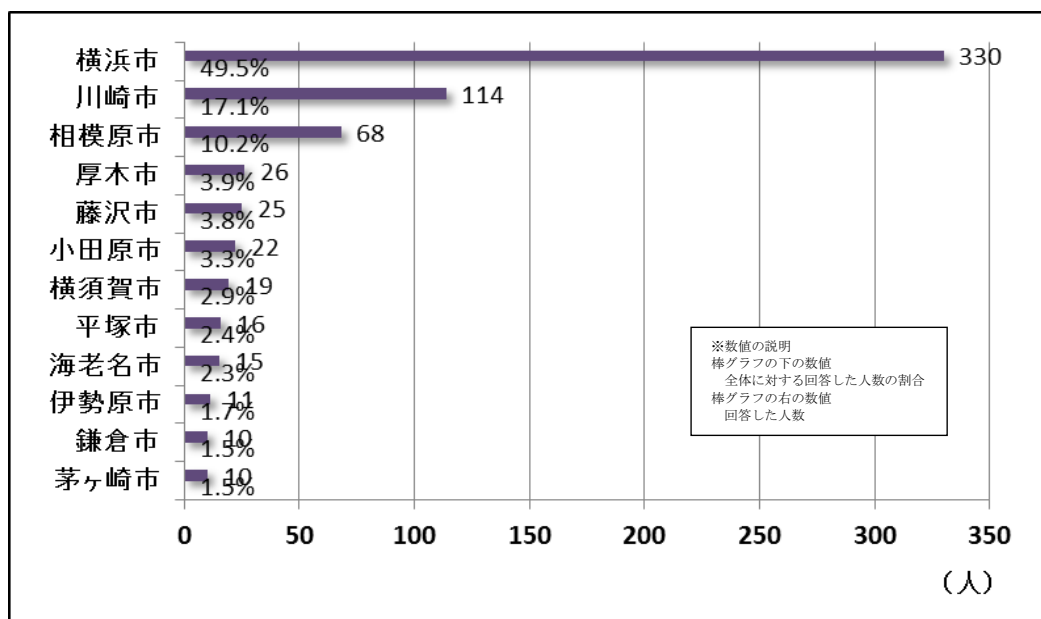


(ウ) 神奈川県

神奈川県内の出発地で最も多かったのは横浜市であり、全体の 49.5%を占めた。横浜市が第 1 位となった要因としては、人口の多さ（3,732,029 人、平成 28 年 5 月 1 日現在）や、鉄道 5 社相互直通運転が平成 25 年 3 月 16 日に開始したことにより交通の利便性が増したことが考えられる。

第 2 位は川崎市の 17.1%で、続いて第 3 位は相模原市（10.2%）という結果であった。

(図 7) 神奈川県の市町村別出発地



(2) 国外

国外から出発した観光客は 243 人、割合としては 3.8%であった。平成 26 年度の 201 人、3.2%から 0.6 ポイント増加した。国別では台湾（111 人）、中国（27 人）、タイ（18 人）、韓国（15 人）、香港（13 人）、アメリカ合衆国（12 人）が上位となった。上位 5 か国はすべてアジアが出発地という結果であった。（表 3）

なお、川越市内の各観光案内所（川越駅観光案内所、本川越駅観光案内所、仲町観光案内所）の統計によると、平成 27 年度の外国人観光客利用者数の上位国は、国別では 1 位が台湾、2 位が中国（香港含む）、3 位がタイ、4 位が米国、5 位が韓国、6 位がシンガポール、イギリス、8 位がフランス、9 位がマレーシア、10 位がドイツであった。上位 5 か国のうち 4 か国をアジアからの旅行者が占める結果となった。

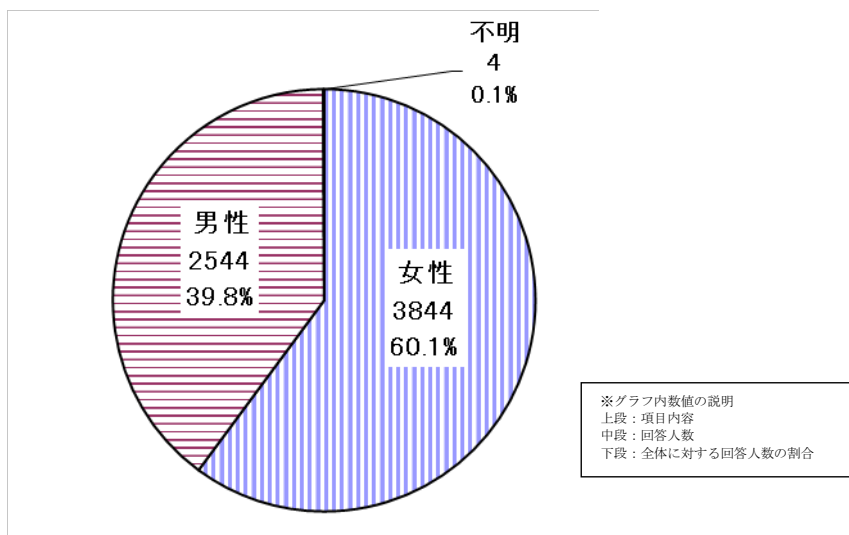
(表 3) 国別出発地

国 名	回答者数
台湾	1 1 1 人
中国	2 7 人
タイ	1 8 人
韓国	1 5 人
香港	1 3 人
アメリカ合衆国	1 2 人
マレーシア	6 人
オーストラリア、イギリス	各 5 人
フィリピン、ドイツ	各 4 人
ベトナム、フランス、ブラジル、シンガポール、カナダ	各 3 人
チリ、タジキスタン、スペイン、スウェーデン、クロアチア、ギリシャ、 オーストリア、アイルランド	各 1 人
計	2 4 3 人

2－3－2 性別

性別は、平成 26 年度の調査同様、女性が男性を上回っており、女性が 60.1%、男性が 39.8%という結果となった。（図 8）

(図 8) 性別

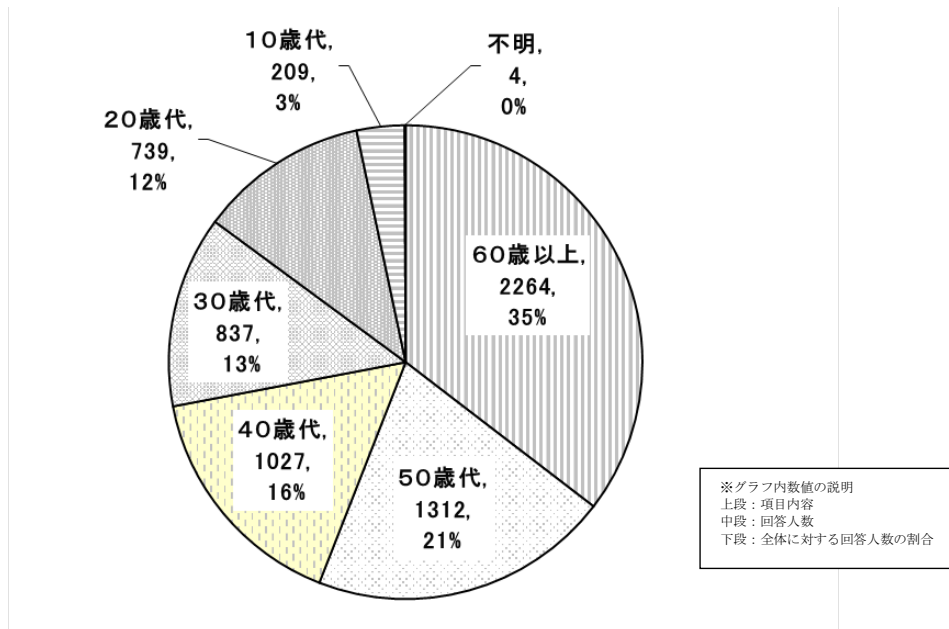


2－3－3 年齢

年齢の上昇に比例して、観光客割合も上昇した。（図 9）

50 歳代以上の中高年層が過半数の 56%という結果となり、平成 26 年度の 59.1%と比べて 3.1 ポイント減少した。

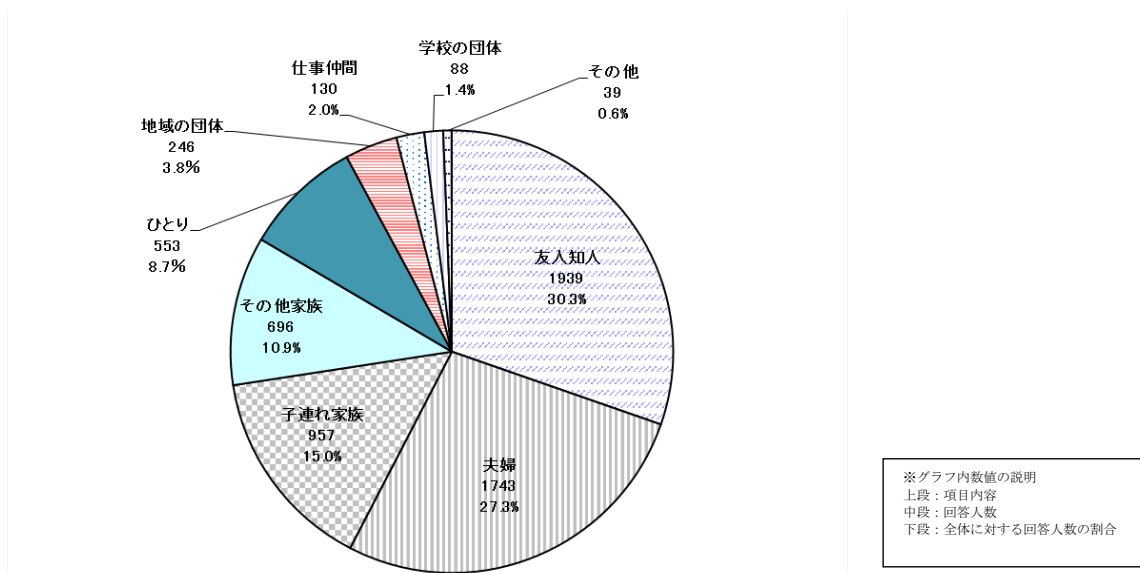
（図 9） 年齢



2－3－4 同行者

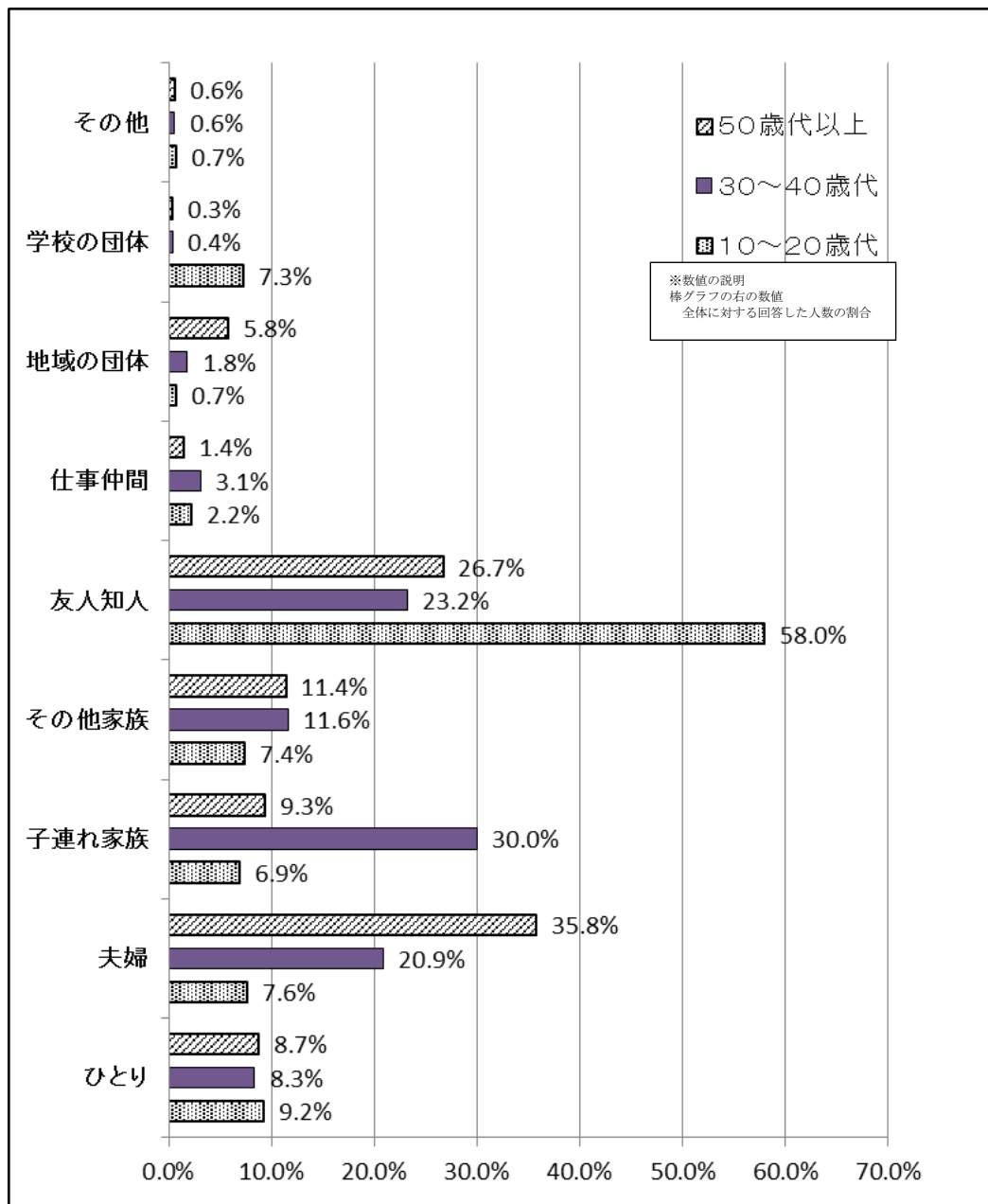
友人知人で川越を訪れる観光客が最も多かった（30.3%）。夫婦（27.3%）、子連れ家族（15.0%）やその他家族（10.9%）を含めると、家族で川越を訪れる観光客は 53.2%と半数以上を占める結果となった。（図 10）

（図 10） 同行者



また、世代別（10～20 歳代、30～40 歳代、50 歳代以上）の同行者を調べたところ、10～20 歳代では友人知人（58.0％）の割合が最も多く、30～40 歳代では子連れ家族（30.0％）の割合が最も多かった。50 歳代以上では夫婦（35.8％）の割合が最も多かった。（図 11）

（図 11）

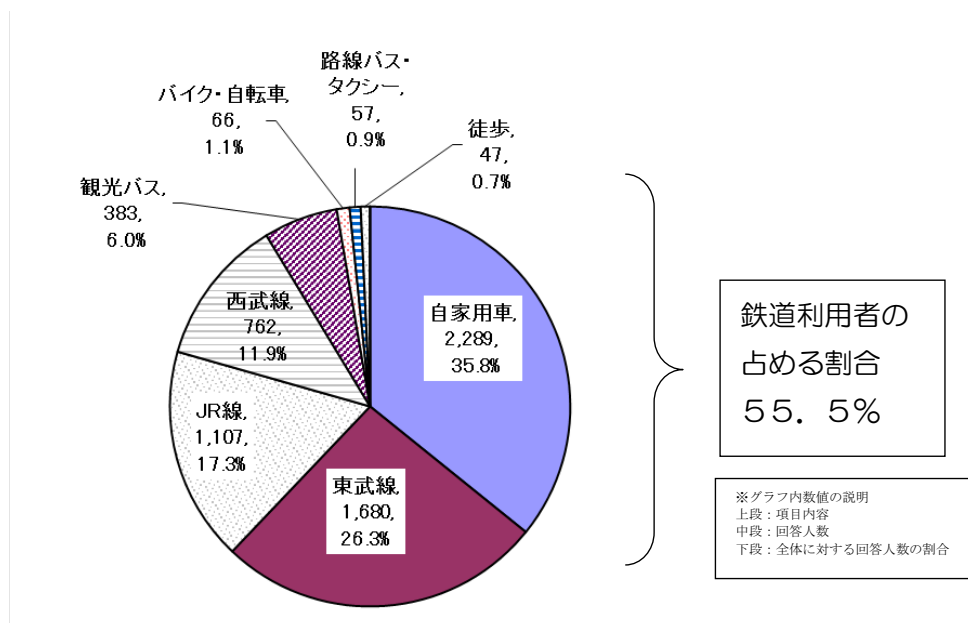


2-3-5 交通手段

川越に乗り入れている鉄道 3 社の利用客率を合計すると約半数（55.5％）になり、平成 26 年度の利用客率（54.3％）より 1.2 ポイント増加した。

また、自家用車の利用客率（35.8％）は前年に比べて 0.1 ポイント減少した（平成 26 年度は 35.9％）。（図 12）

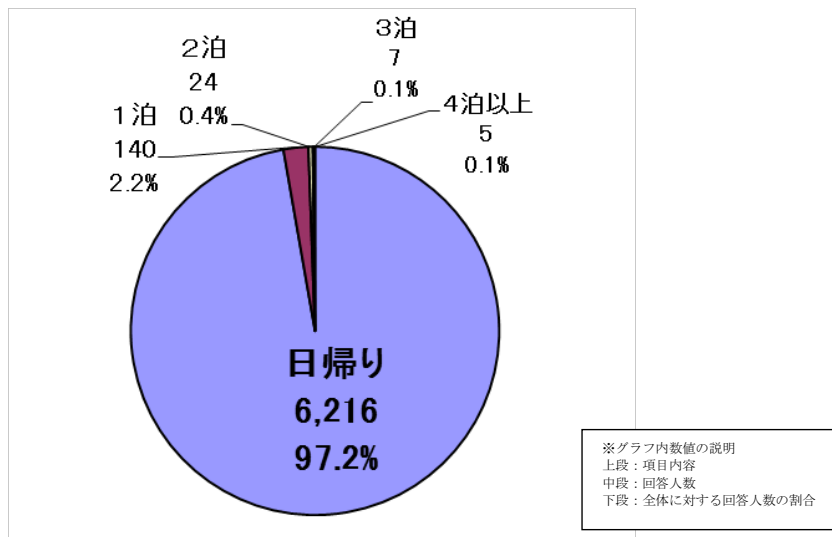
(図 1 2) 交通手段



2-3-6 滞在期間

川越市内の滞在期間は日帰りが 97.2%と、大半を占めた。平成 26 年度（日帰り 97.2%）と同じ割合であった。(図 13)

(図 1 3) 滞在期間



2-3-7 宿泊観光客

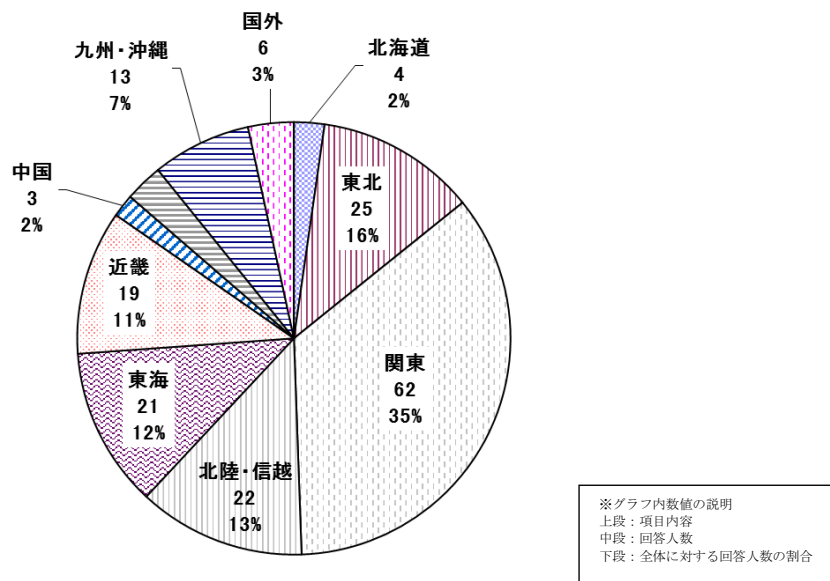
川越市内の宿泊を伴う宿泊観光客の割合は、2.8%（176 人）だった。そのうち国外が出発地の観光客は 6 人だった。

国内の出発地の地方別内訳は (図 14)、都道府県別内訳は (図 15) のとおりである。

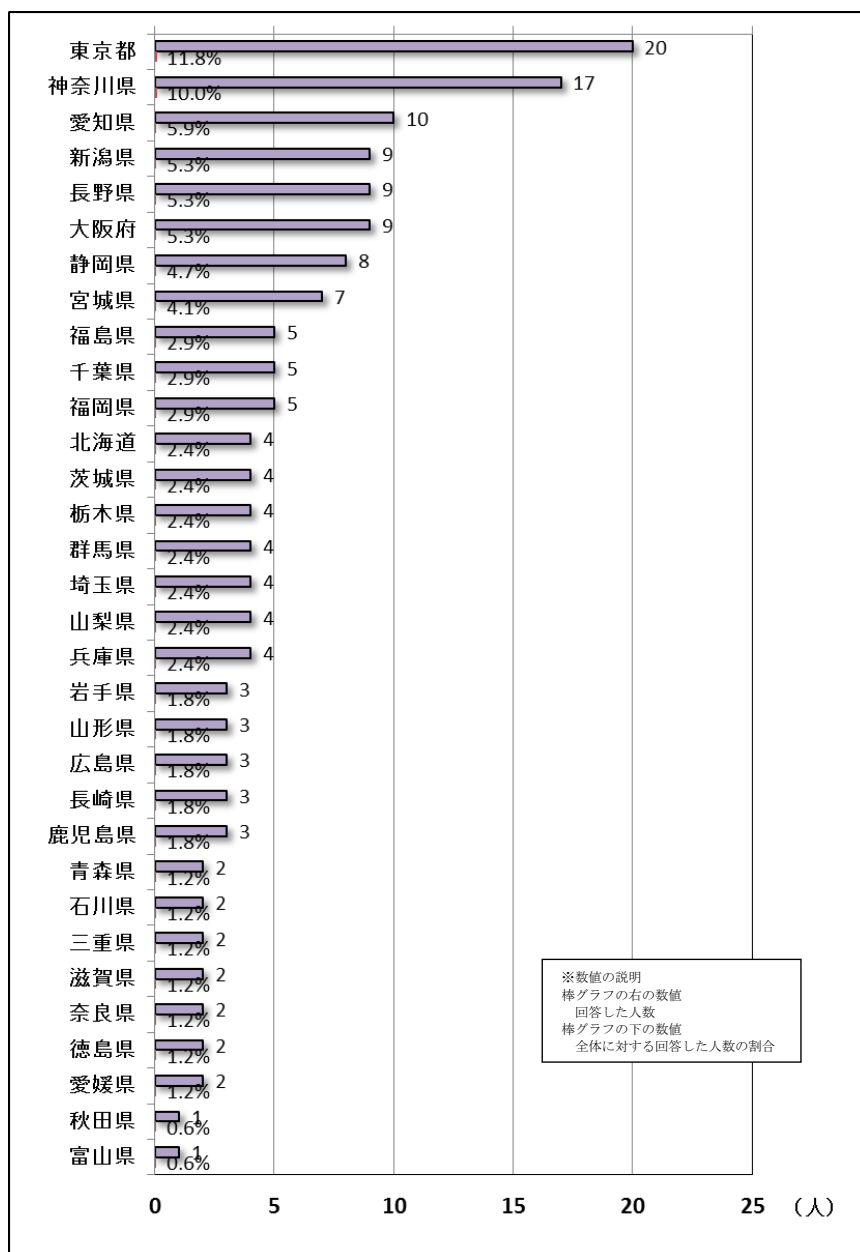
都道府県別では、東京都が最も多く（20 人、11.8%）、2 位が神奈川県（17 人、10.0%）、3 位が愛知県（10 人、5.9%）だった。前年は、神奈川県が最も多く（15 人、8.7%）、2 位は宮城県（12 人、6.9%）、第 3 位は東京都（12 人、6.9%）であったのに対して、東京都の割合が 4.9%増加し、順位を落とした神奈川県についても 1.3%増加した。

国外の出発地は、台湾が 3 人、タイが 2 人、アメリカ合衆国が 1 人だった。

(図 1 4) 宿泊観光客の地方別出発



(図 1 5) 宿泊観光客の都道府県別出発地

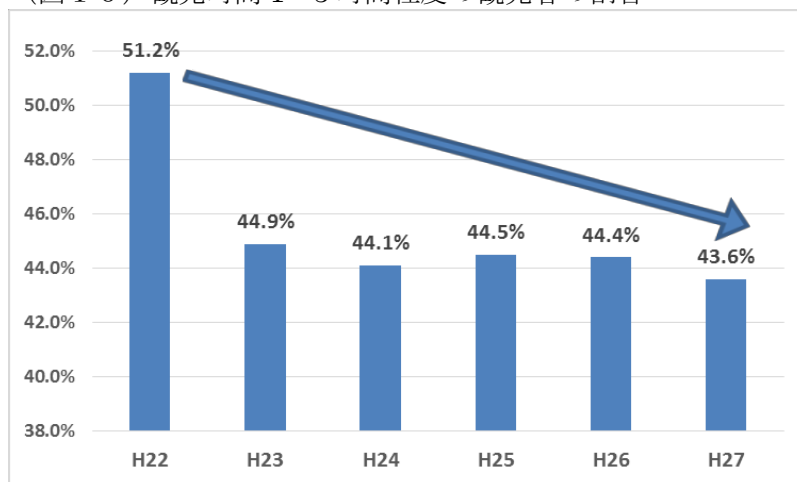


2-3-8 観光時間

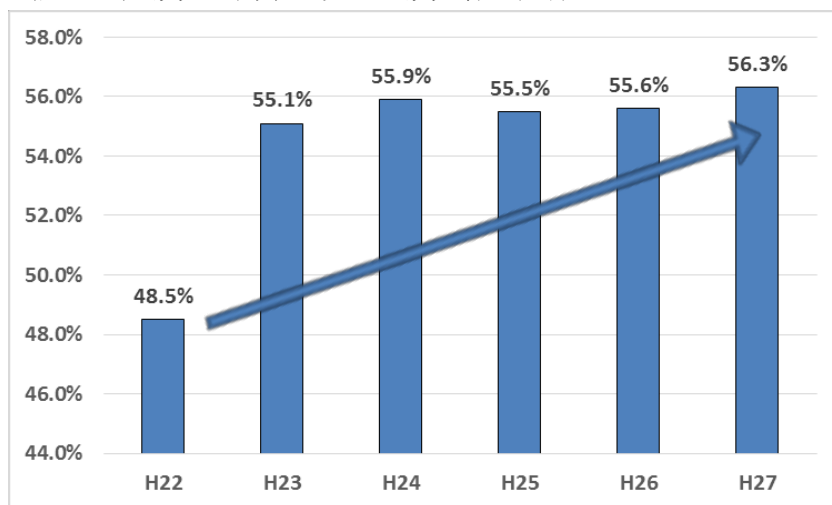
川越は日帰り観光地となっていることから、観光時間が3時間程度から半日の観光客が大半を占めた。(図18)

平成22年度以降の観光アンケート調査と比較すると、滞在時間について、1～3時間程度の観光客率は減少傾向にあり、半日以上の観光客率は増加傾向にある結果となった。(図16及び図17参照)

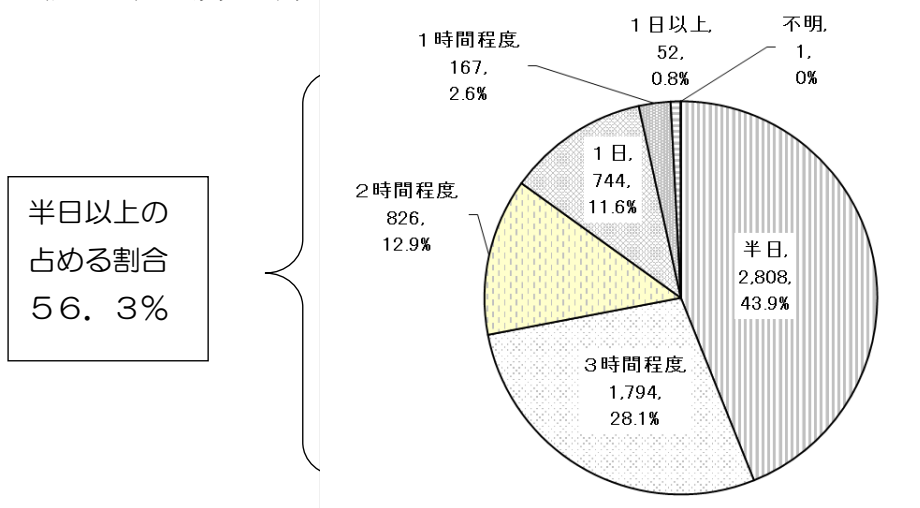
(図16) 観光時間1～3時間程度の観光客の割合



(図17) 観光時間半日以上の観光客の割合



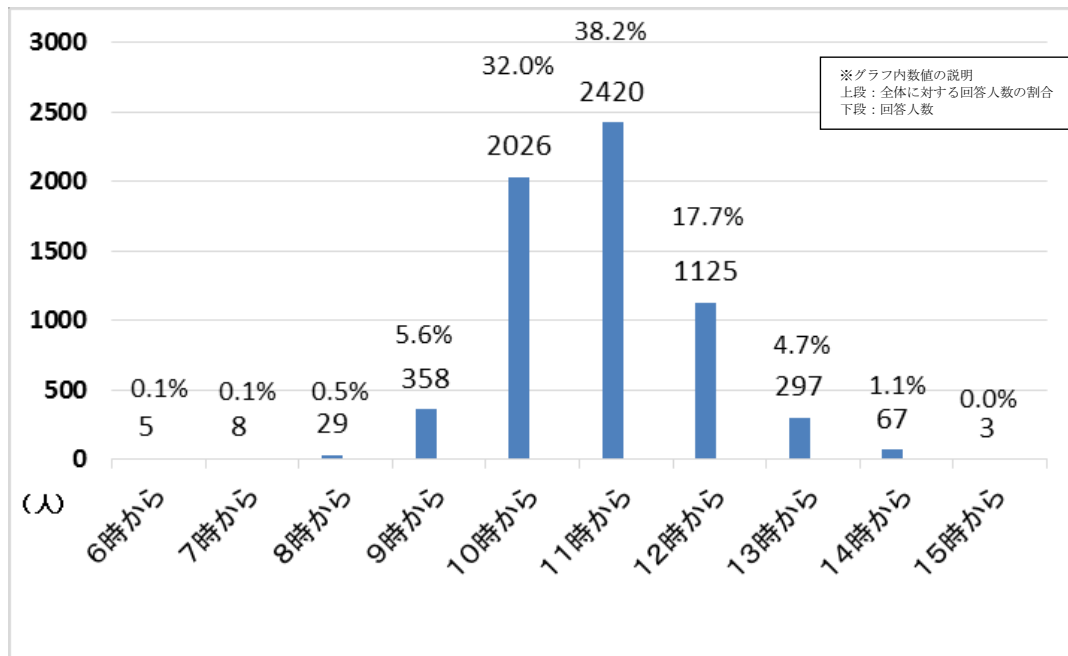
(図18) 観光時間



2-3-9 訪れた時刻、帰る時刻

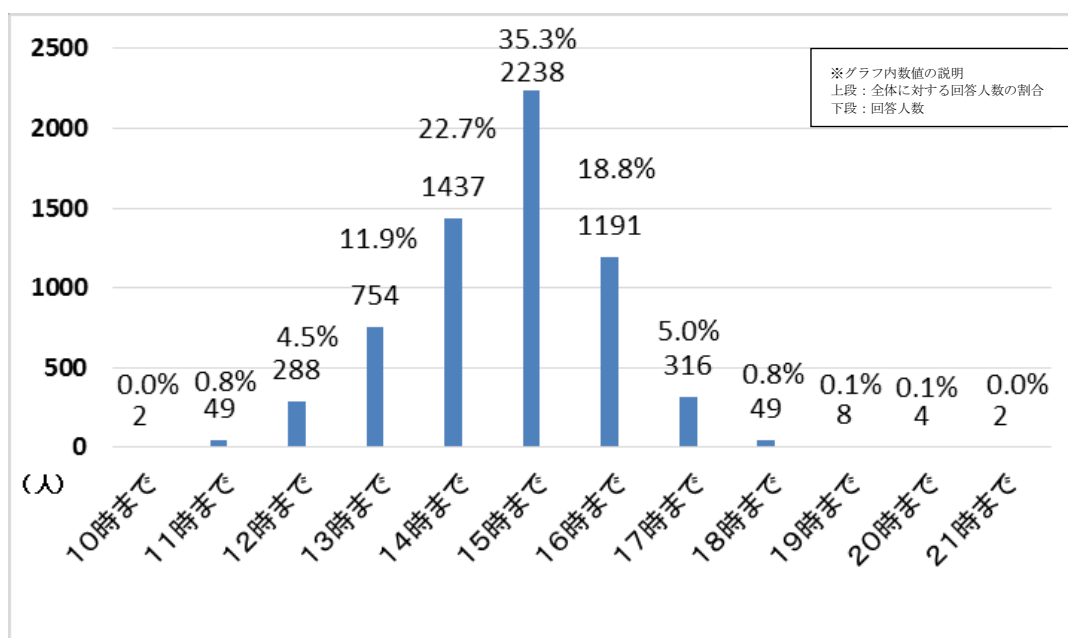
訪れた時刻で最も多かったのは11時で2,420人(38.2%)、その次に多かったのは、10時の2,026人(32.0%)だった。続いて、12時の1,125人(17.7%)となっており、約88%の方が10時～12時に訪れていた。(図19)

(図19) 訪れた時刻



帰る時刻で最も多かったのは、15時の2,238人(35.3%)であった。その次に多かったのは、14時の1,437人(22.7%)、続いて16時の1,191人(18.8%)であった。(図20)

(図20) 帰る時刻

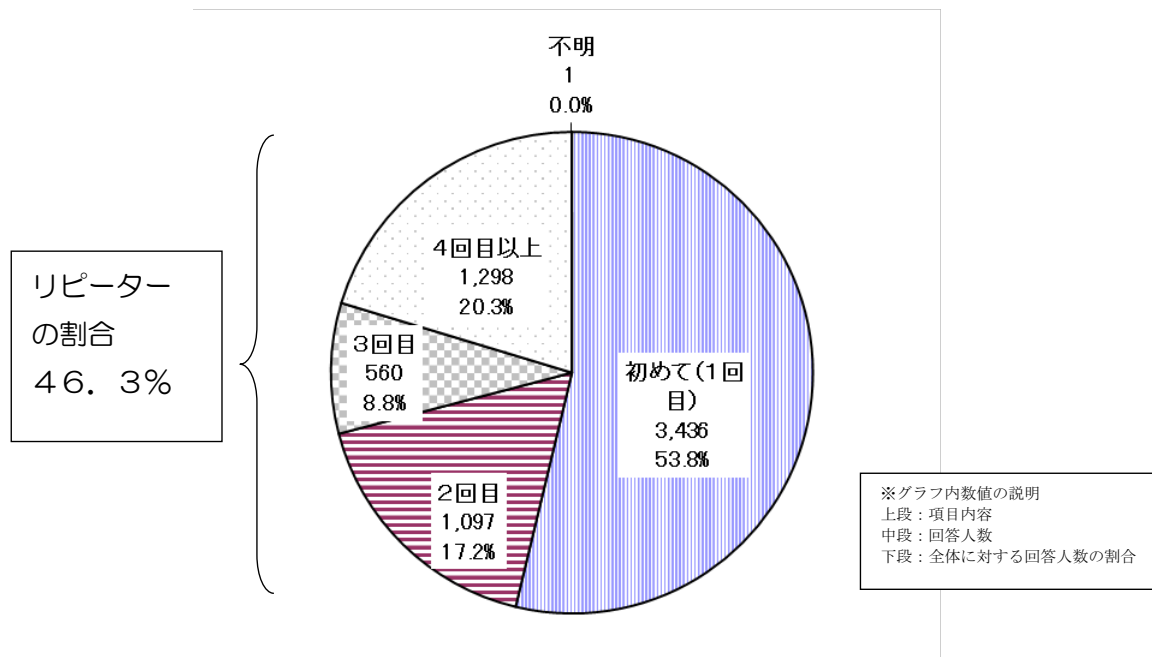


2-3-10 来訪回数

川越を「初めて」訪れた観光客は53.8%で、平成26年度の53.6%から0.2ポイント増加しており、平成23年度以降「初めて」の割合は増加し続けている結果となった。2回以上訪れている「リピーター」は46.3%だった。(図21)

リピーターの中でも4回以上訪れているリピーターが最も多かった(20.3%)。

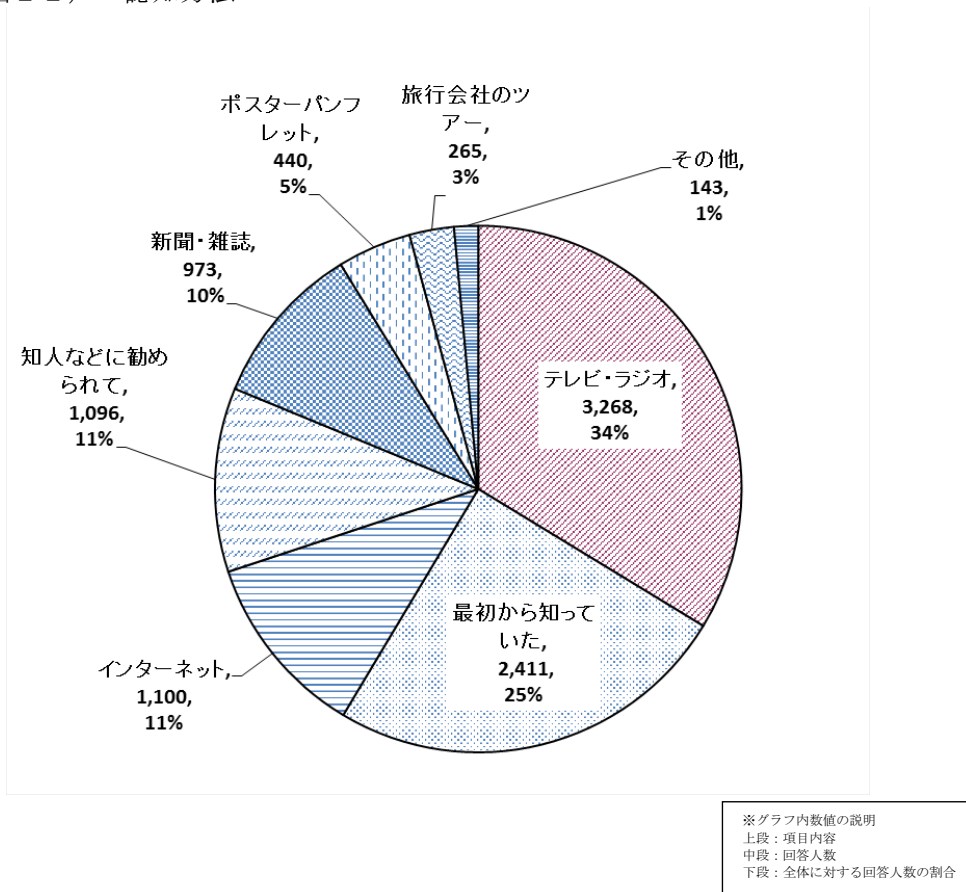
(図 2 1) 来訪回数



2-3-1-1 認知方法

川越を知った方法は、「テレビ・ラジオ」が 34%と最も多く、平成 26 年度の 32% から 2 ポイント増加した。「最初から知っていた（地元の人を含む）」は、25%で、「新聞・雑誌」については 10%であった。（図 22）

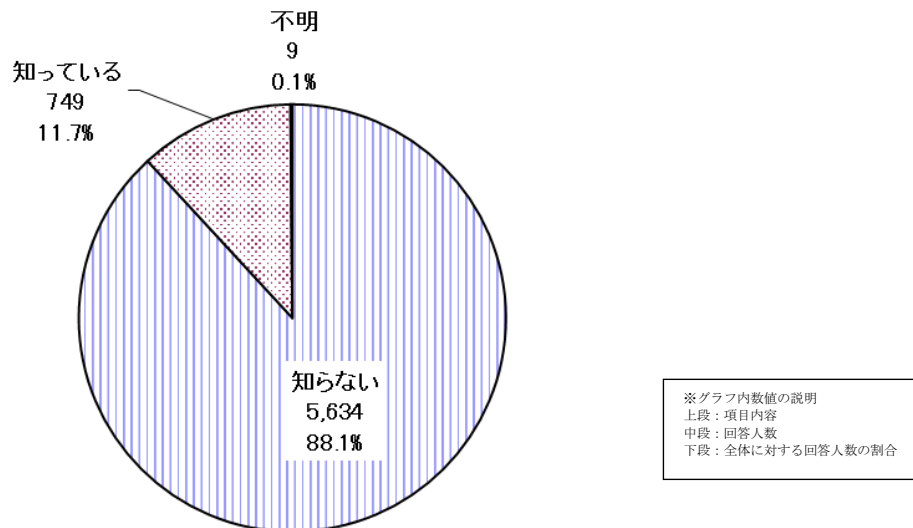
(図 2 2) 認知方法



また、川越の認知方法とあわせて、川越市マスコットキャラクター「ときも」（川越市のマスコットキャラクターで、平成 22 年 3 月に誕生した。時の鐘とサツマイモをモチーフにしたキャラクター。表紙参照。）の認知度についても調査を行った。

「ときも」を知っていると答えた人は全体の 11.7%で平成 26 年度の 10.6%から 1.1 ポイント増加しており、年々増加傾向にある。（図 23）

（図 23） 「ときも」認知度



2-3-12 立ち寄り観光地

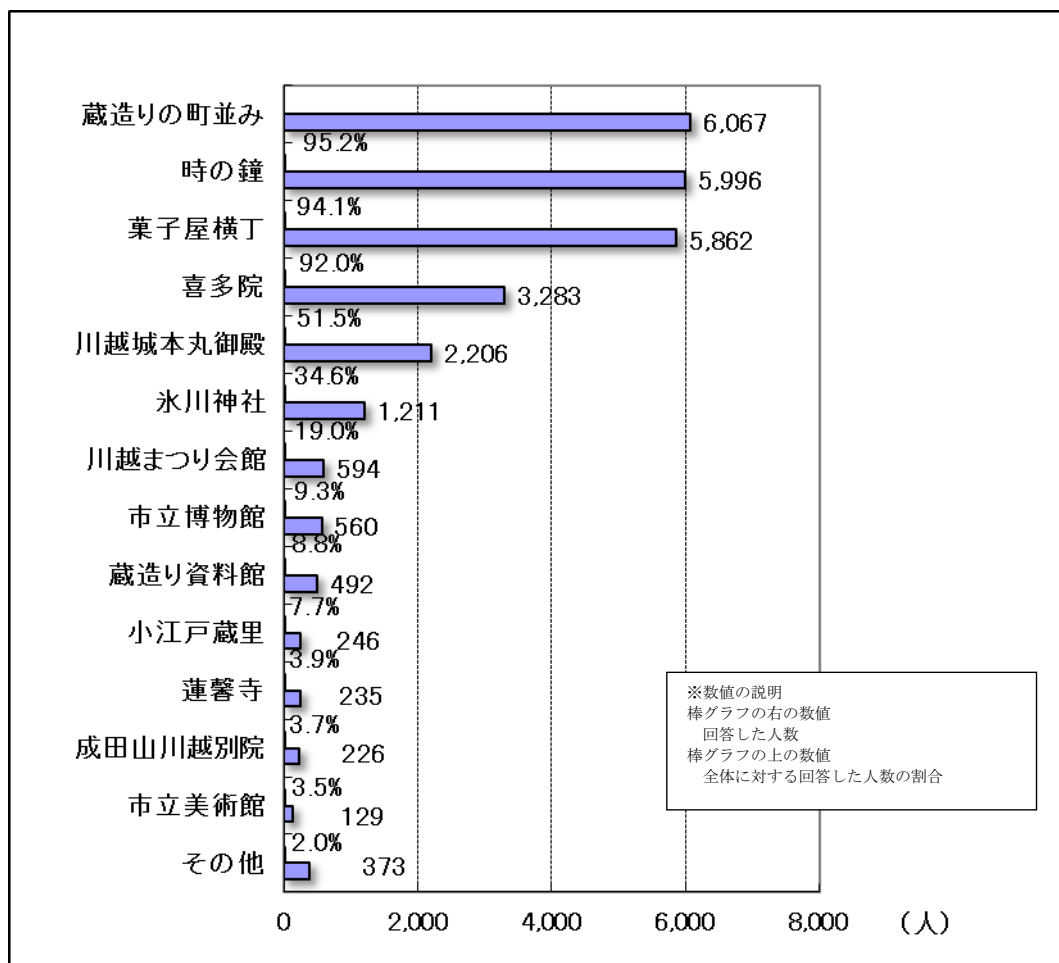
立ち寄り観光地について調査を行ったところ、蔵造りの町並み、時の鐘、菓子屋横丁は 9 割以上の観光客が訪れていた。平成 27 年度は蔵造りの町並み 95.2%、時の鐘 94.1%、菓子屋横丁 92.0%であり、いずれも減少した。（図 24）その次に多かったのは喜多院で 51.5%の観光客が訪れていた。その次は川越城本丸御殿（34.6%）だった。また、氷川神社が 19.0%となっており、平成 23 年度 6.7%→平成 24 年度 8.4%→平成 25 年度 9.5%→平成 26 年度 14.3%と、年々増加していることが分かった。平成 26 年から開催されている、「川越氷川神社縁むすび風鈴」という新規イベント等の実施により注目を集めており、その他の観光地と比較して飛躍的に増加している。

平成 27 年度に実施した「氷川神社縁むすび風鈴アンケート調査」によると、氷川神社以外の訪問先として、蔵造りの町並みを訪問した観光客の割合は、60.8%、時の鐘は 48.5%、菓子屋横丁は 40.4%となっている。このことから推測すると、氷川神社のみを目的として、川越観光に訪れる観光客が少なくない。（参考 2）

蔵造りの町並み、時の鐘、菓子屋横丁の割合が減少した要因としては、菓子屋横丁の火災のほか、氷川神社のみを訪れる観光客が増加したことが考えられる。

また、観光客一人につき、平成 27 年度は平均 4.3 箇所の観光地を訪れており、平成 26 年度の 4.4 箇所と比べて 0.1 ポイント減少したが、これも氷川神社への直行直帰が要因のひとつと考えられる。

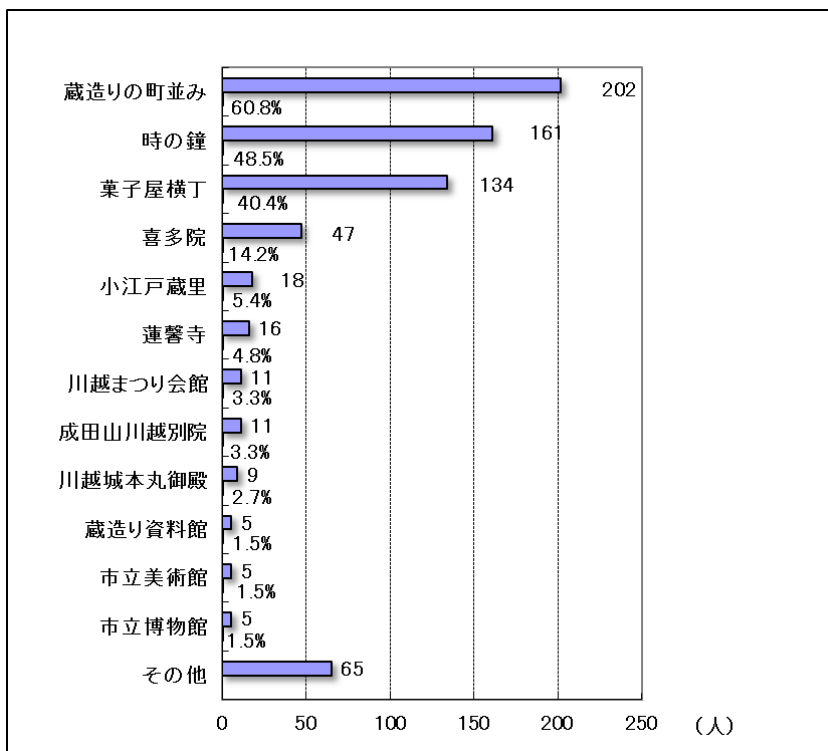
(図 2 4) 立ち寄り観光地



※回答者 1 人につき、複数回答あり

割合 (%) は、それぞれの項目を回答した人数を、回答者総数 (6,392 人) で割ったもの

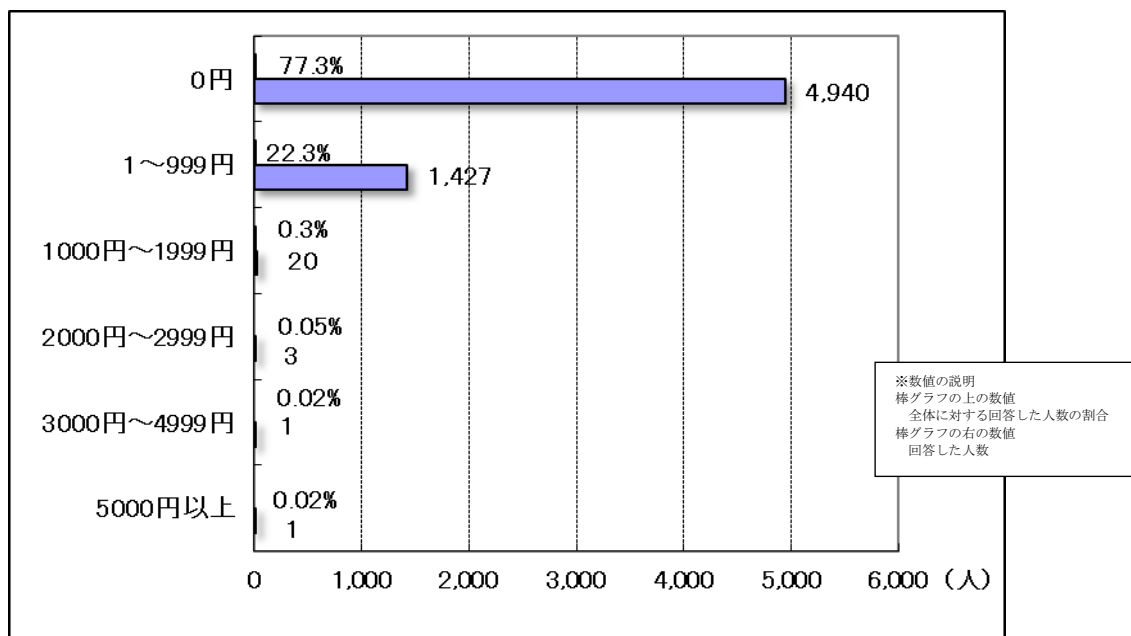
(参考) 平成 27 年度氷川神社縁結び風鈴アンケート調査における立ち寄り観光地



2-3-13 交通費

観光客の市内における交通費支出は、「支出なし」が 77.3%と大半を占める結果となった。「支出する」割合は 22.7%であり、平成 26 年度の 21.6%から 1.1 ポイント増加した。支出した方のほとんどは 1,000 円未満の支出だった。また、一人あたりの平均交通費は 384 円であり、平成 26 年度の 387 円よりも 3 円減少した。（図 25）

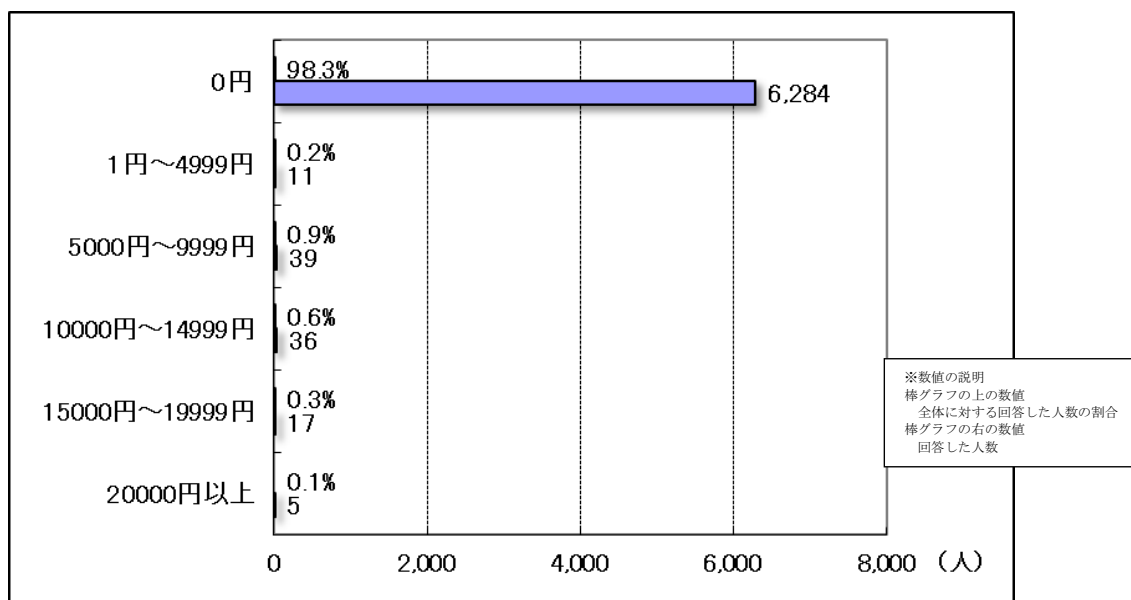
（図 2 5） 交通費



2-3-14 宿泊費

宿泊費を支出しない観光客の割合は全体の 98.3%で、前年度よりも 0.1 ポイント減少した。（平成 26 年度：98.2%）。また、宿泊費を支出する観光客一人あたりの平均宿泊費は 10,061 円で、平成 26 年度の 9,170 円よりも 891 円増加した。（図 26）

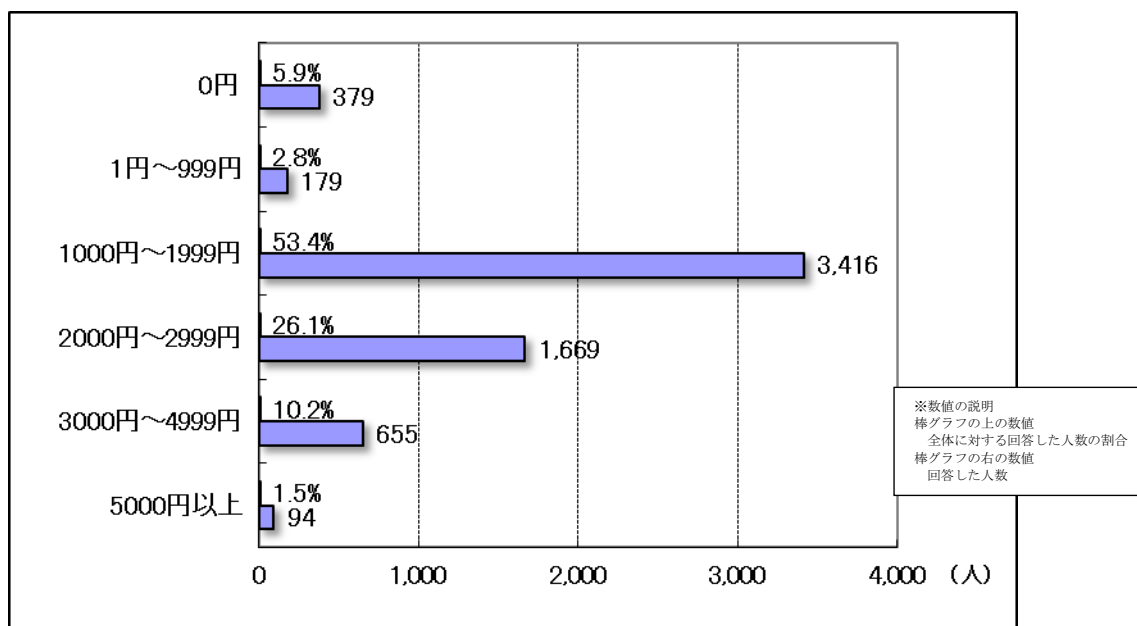
（図 2 6） 宿泊費



2－3－15 飲食費

市内における飲食費は「支出なし」が 5.9%であり、前年より微増した（平成 26 年度 5.4%）。飲食費の支出は 1,000 円台が最も多く、半数以上を占める結果となった。一人あたりの平均飲食費は 1,736 円で、平成 26 年度の 1,672 円より 64 円増加しており、5 年連続で増加する結果となった。（平成 22 年度 1,579 円→平成 23 年度 1,594 円→平成 24 年度 1,601 円→平成 25 年度 1,623 円→平成 26 年度 1,672 円→平成 27 年 1,736 円）（図 27）

（図 2 7） 飲食費

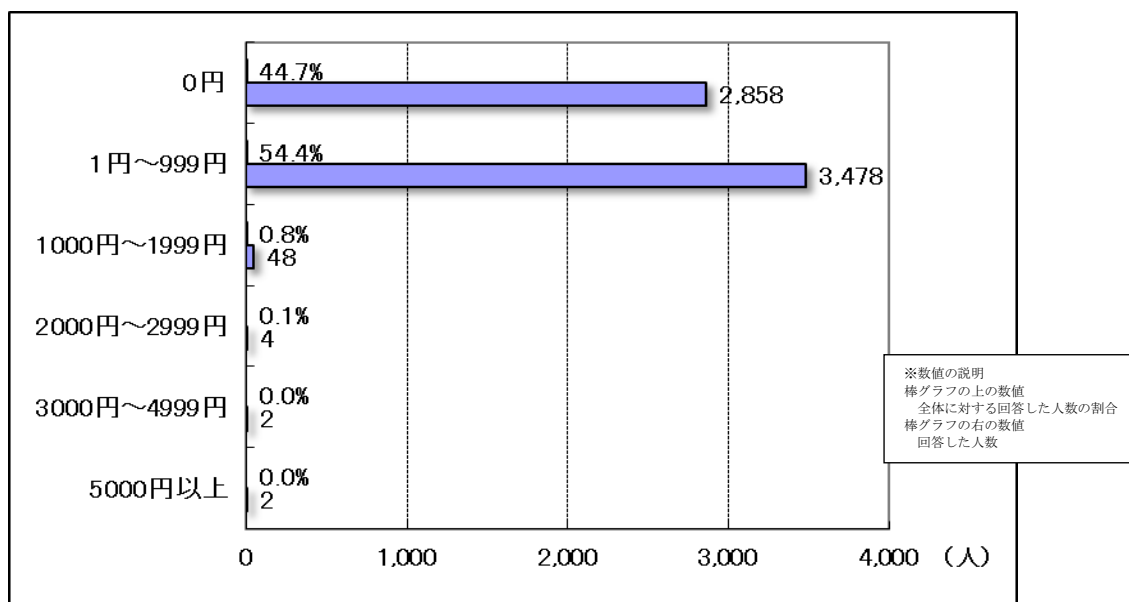


2－3－16 入館料・入場料

市内における入館料・入場料は「支出なし」が 44.7%であり、平成 26 年度の 39.6%と比較して、5.1 ポイント増加した。入館料・入場料の支出は 1,000 円未満が最も多く、一人あたりの平均入館料・入場料は 410 円で、前年度の 406 円よりも 4 円増加した。

（図 28）

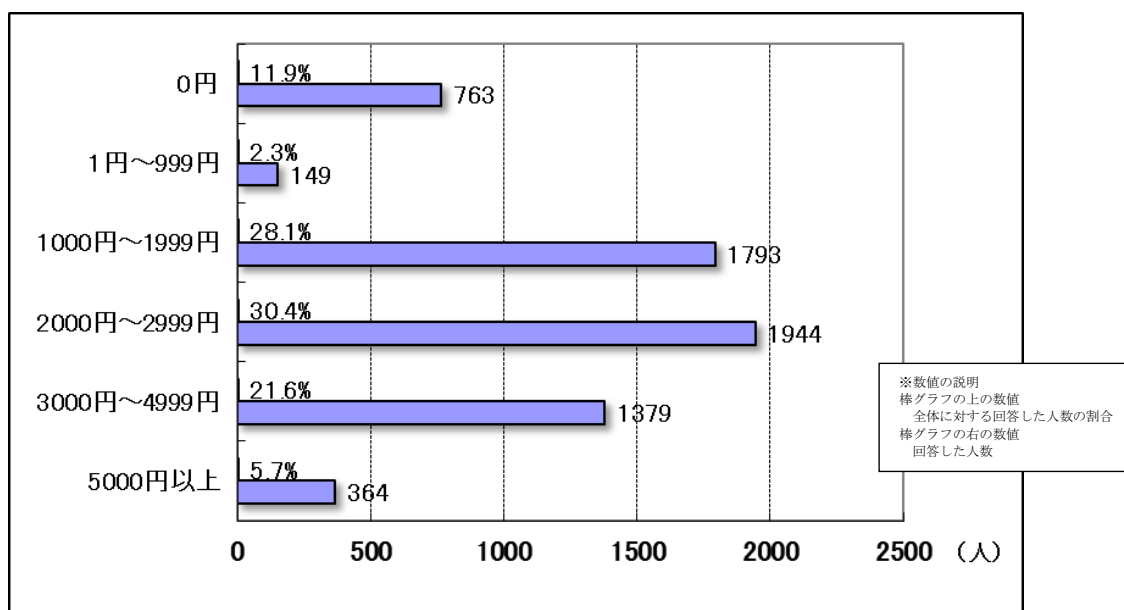
（図 2 8） 入館料・入場料



2-3-17 お土産品購入費

市内におけるお土産品購入費は、「支出なし」が 11.9%であり、前年度の 12.9%に比べて 1.3 ポイント減少した。前年は、最も多かったのが 2,000 円台、次いで 3,000 円台であったが、平成 27 年度は、1 位が 2,000 円台、2 位が 1,000 円台であった。これは、前年と比べて、中高年層の割合が減少し、若者の割合が増加した影響があると考えられる（12 ページ、図 9 及び 28 ページ、表 8 参照）。1 人あたりの平均購入額は 2,221 円で、前年度の 2,368 円と比較して 147 円減少した。（図 29）

（図 29） お土産品購入費



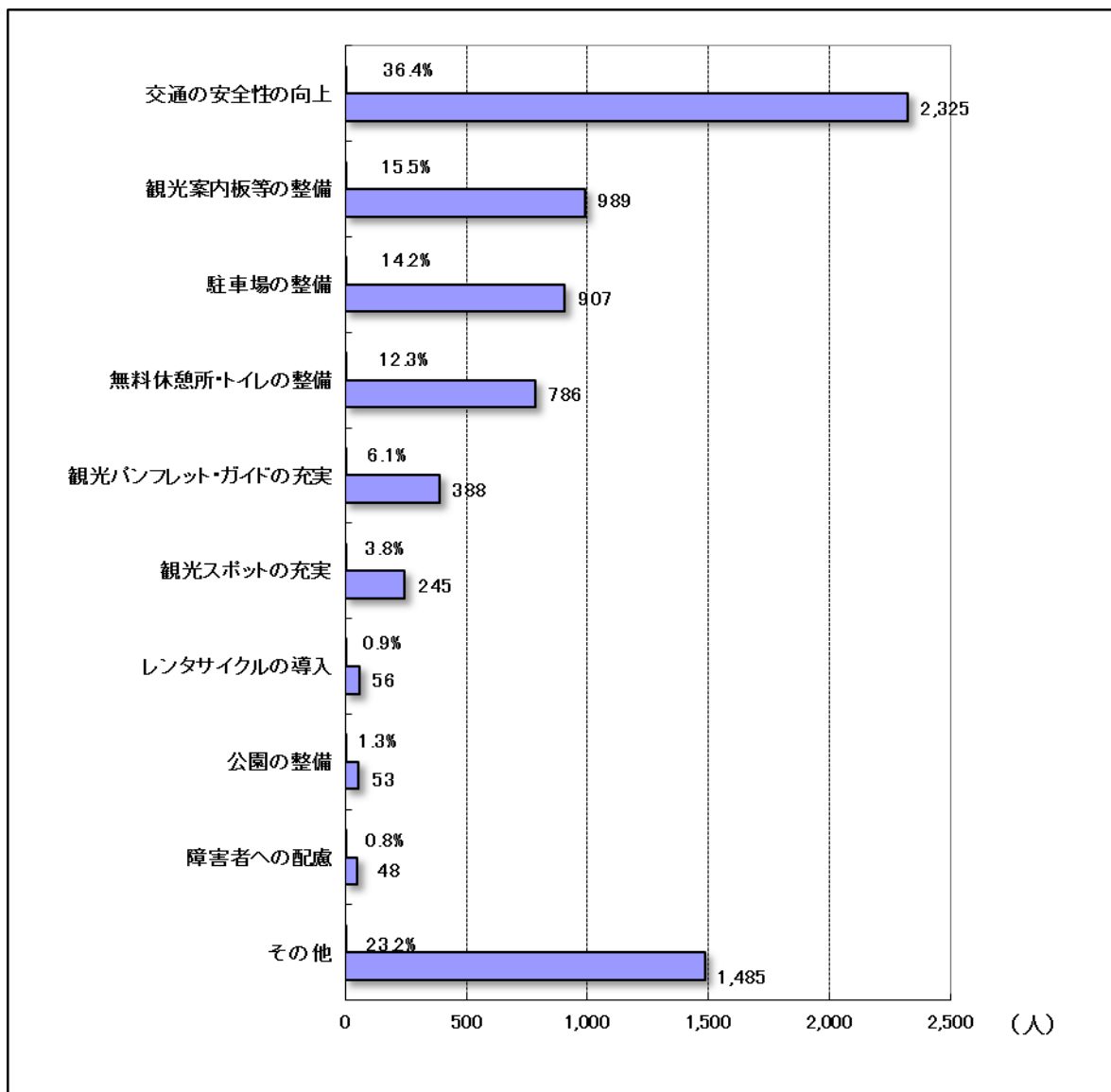
2-3-18 要望

「交通の安全性の向上」（36.4%）が要望として最も多いが、平成 26 年度 39.5%と比べて 3.1 ポイント減少しており年々減少傾向にある。（平成 25 年度は 41.5%）

また、前年は 2 番目に多かった要望が「無料休憩所・トイレの整備」18.7%であったが、平成 27 年度は、12.3%と 6.4 ポイント減少した。これは、平成 26 年度に元町休憩所がオープンしたことや、まちなかトイレきれい化事業（平成 26 年度：喜多院境内トイレ建替工事、元町休憩所トイレ利用開始など）が影響していると推測される。

（図 30）

（図 30） 要望



※回答者 1 人につき、複数回答あり。（%）は回答者総数（6,392 人）に対する割合である。

2-3-19 意見・感想（自由回答）

川越に対する具体的な意見・感想については、主に下記のような意見があった。中でも、昨年と同様、一番街の交通安全対策や歩行者天国の実施を求める声が最も多かった。また、メディアの影響力も高く、「テレビで見て川越にきた」という意見が昨年に比べて多くあった。トイレや休憩所については、今までは改善を求める意見・要望が多かったのに対し、今年はトイレが綺麗、休憩所がきれい等の高評価の声が多かった。その他の意見として、バスの案内板の充実やバスの本数の増加等の要望が多かった。（表4）

（表4） 川越に対する主な意見・感想

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・テレビでよく放映されているので来てみた。・桜を見に来た。・観光案内所の人がとても親切。・菓子屋横丁が元気に営業していて安心した。・案内所の位置が分かりづらい。・喜多院から蔵の街への分かりやすい案内板が必要。・喜多院のトイレがきれいだった。・歩道が狭く、非常に危険だった。・土日だけでも歩行者天国にしてほしい。・車椅子の貸し出し案内が少ない。・駐輪場の場所が分かりづらい。・駐車料金をもっと安くしてほしい。・土日は市役所の駐車場を無料で利用できるようにしてほしい。・無料駐車場が遠い。・トイレが綺麗。・ベンチを設置してほしい。・日差しを避ける場所が欲しい。・元町休憩所のような施設がもう少し必要。・元町休憩所のトイレがきれい。・バス停の場所が分かりづらい。・バスの本数を増やしてほしい。・もっと分かりやすいパンフレットがほしい。・喫煙所を増やしてほしい。・大きい荷物を入れるコインロッカーがない。・レンタサイクルの利用方法が難しかった。・食事処のパンフレットがほしい。・観光ガイドを常駐させてほしい。・歴史を感じる町並みだった。・この町並みを維持してほしい。 |
|---|

3. 観光消費額

観光する際に一般的に消費する「交通費」、「宿泊費」、「飲食費」、「入館料・入場料」、「お土産品購入費」の5項目それぞれの平均消費額を調査し、これを基に、観光客一人あたりの平均消費額や川越にもたらされる全体の消費額、さらには、平成26年度と比較してどの程度の変化が見られたかを分析した。

平成27年の入込観光客数は664万5千人だったが、家族単位で訪れる時などは全員が消費活動を行うわけではないので、平成17年からの調査同様に、今回の調査結果からも家族単位で川越を訪れている観光客が多かったため(12ページ、図10参照)、実際に消費活動を行う人数を入込観光客数664万5千人の約40%の266万人と仮定し(平成26年度は657万9千人の約40%である263万人を用いた)、この数値から消費活動率などを踏まえて、川越にどの程度の消費がもたらされたかを試算した。

(表5) 平成27年度の消費項目別の観光客平均消費額

項目	消費活動率	平均消費額	消費活動人数	消費総額
交通費	22.7%	¥384	603,820	¥231,866,880
宿泊費	1.7%	¥10,061	45,220	¥454,958,420
飲食費	94.1%	¥1,736	2,503,060	¥4,345,312,160
入館料・入場料	55.3%	¥410	1,470,980	¥603,101,800
お土産品購入費	88.1%	¥2,221	2,343,460	¥5,204,824,660
合 計				¥10,840,063,920

※①消費活動率…アンケート回答者総数(6,392人)に対する、各項目で「支出あり」と回答した観光客の割合。

※②平均消費額…各項目において、観光客1人当たりが消費する平均金額。

※③消費活動人数…各々の項目で消費活動を行う人数。消費活動を行う対象となる観光客数266万人に各々の消費活動率を乗じたもの。

※④消費総額…各々の項目で消費される総額。平均消費額に消費活動人数を乗じたもの。

消費総額で最も高かったのは、お土産品購入費の約52億480万円で、最も低かったのは交通費の約2億3190万円だった。また、平均消費額で見ると、最も高かったのは、宿泊費の10,061円で、最も低かったのは、交通費の384円だった。

また、各々の消費総額を合計し、川越にもたらされる消費額全体を試算したところ、約108億4000万円となった。平成26年度の結果(約109億6400万円)と比較すると、約1.1%の減少となった(28ページ、図31参照)。

消費総額を各項目別で見ると、前年度と比較して、交通費は約5.5%、宿泊費が約4.8%、飲食費は約4.5%増加した。入館料・入場料は約6.5%減、お土産品購入費も約5.5%減少した(表6参照)。

お土産購入費については、消費総額は減少したが、消費活動率は過去 5 年と比較すると、増加傾向である。また、飲食費の消費活動率についても、過去 5 年で最も高い結果となった。一方、入館料・入場料の消費活動率は、過去 5 年で最も低かった。

このことから、お土産を購入する観光客は増加しているが、単価が安いものを購入する人が増加したと推測される。また、観光施設を目的として訪れる観光客よりも、食べ歩きなどで町歩きを楽しむことを目的とする観光客が増加していると推測される。

(表 6) 平成 26 年度の消費項目別の観光客平均消費額

項目	消費活動率	平均消費額	消費活動人数	消費総額
交通費	21.6%	¥387	568,080	¥219,846,960
宿泊費	1.8%	¥9,170	47,340	¥434,107,800
飲食費	94.6%	¥1,672	2,487,980	¥4,159,902,560
入館料・入場料	60.4%	¥406	1,588,520	¥644,939,120
お土産品購入費	88.4%	¥2,368	2,324,920	¥5,505,410,560
合計				¥10,964,207,000

観光客一人あたりの平均消費額については、「日帰り観光客」、「宿泊観光客」、「観光客全体」に分けて算出した。(表 7)

また、宿泊観光客については、「宿泊費を支出する観光客」(ホテルや旅館に宿泊と推定)と「宿泊費を支出しない観光客」(家族や友人の家などに宿泊と推定)がいたため、両者を区別して算出した。

(表 7) 滞在形態別の観光客平均消費額

	人数(人)	平均消費額
宿泊観光客(宿泊費支出あり)	104	¥17,092
宿泊観光客(宿泊費支出なし)	72	¥5,460
日帰り観光客	6,216	¥3,839
全体	6,392	¥4,073

「宿泊費支出あり」の宿泊観光客の平均消費額は 17,092 円、「宿泊費支出なし」の宿泊観光客は 5,460 円、日帰り観光客は 3,839 円だった。

また、観光客全体では 4,073 円だった。4,166 円だった平成 26 年度と比較すると、93 円減少した。

次に、世代別(10～20 歳代、30～40 歳代、50 歳代以上、不明除く)で平均消費額を調べたところ、10～20 歳代の平均消費額は 3,196 円、30～40 歳代の平均消費額は 4,012 円、50 歳代以上の平均消費額は 4,336 円と、年代が上がるにつれ、平均消費額が増える結果となった。(表 8)

消費総額については、平成 22 年度以降、年々増加していたが、5 年ぶりに減少する結果となったが、消費総額が減少した要因の一つとしては、平均消費額の高い中高年層の観光客割合が減少し、平均消費額の低い若者観光客の割合が増加したことが考えられる。（12 ページ図 9、及び 28 ページ表 8 参照）

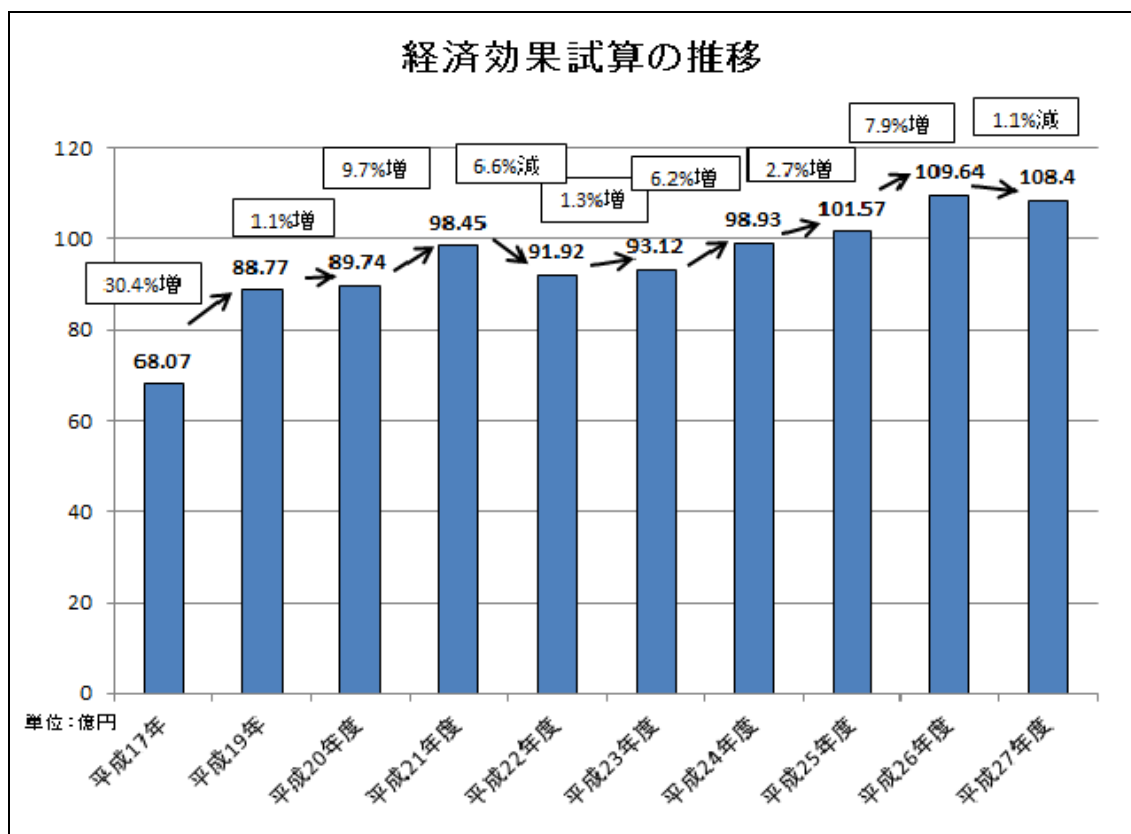
若者観光客の平均消費額の増加のためには、若者志向の新規イベントの実施などを検討していく必要がある。

（表 8） 世代別の観光客平均消費額

項 目	人数（人）	平均消費額
10～20 歳代	948	¥3,196
30～40 歳代	1,864	¥4,012
50 歳代以上	3,576	¥4,336

※合計人数が 6,388 人となるが、これは年齢未記入者が 4 名いるため。

（図 3 1） 経済効果試算の推移



※平成 18 年については、観光アンケート調査を行っていない。

※数値の説明
棒グラフの上の数値
消費総額の合計
棒グラフの上の枠内数値
年度毎の増減割合

川越市観光アンケート調査報告書 平成27年度

平成28年5月

編集・発行 川越市産業観光部観光課

〒350-8601 埼玉県川越市元町 1-3-1

TEL 049-224-5940（直通） 049-224-8811（代表）

FAX 049-224-8712